

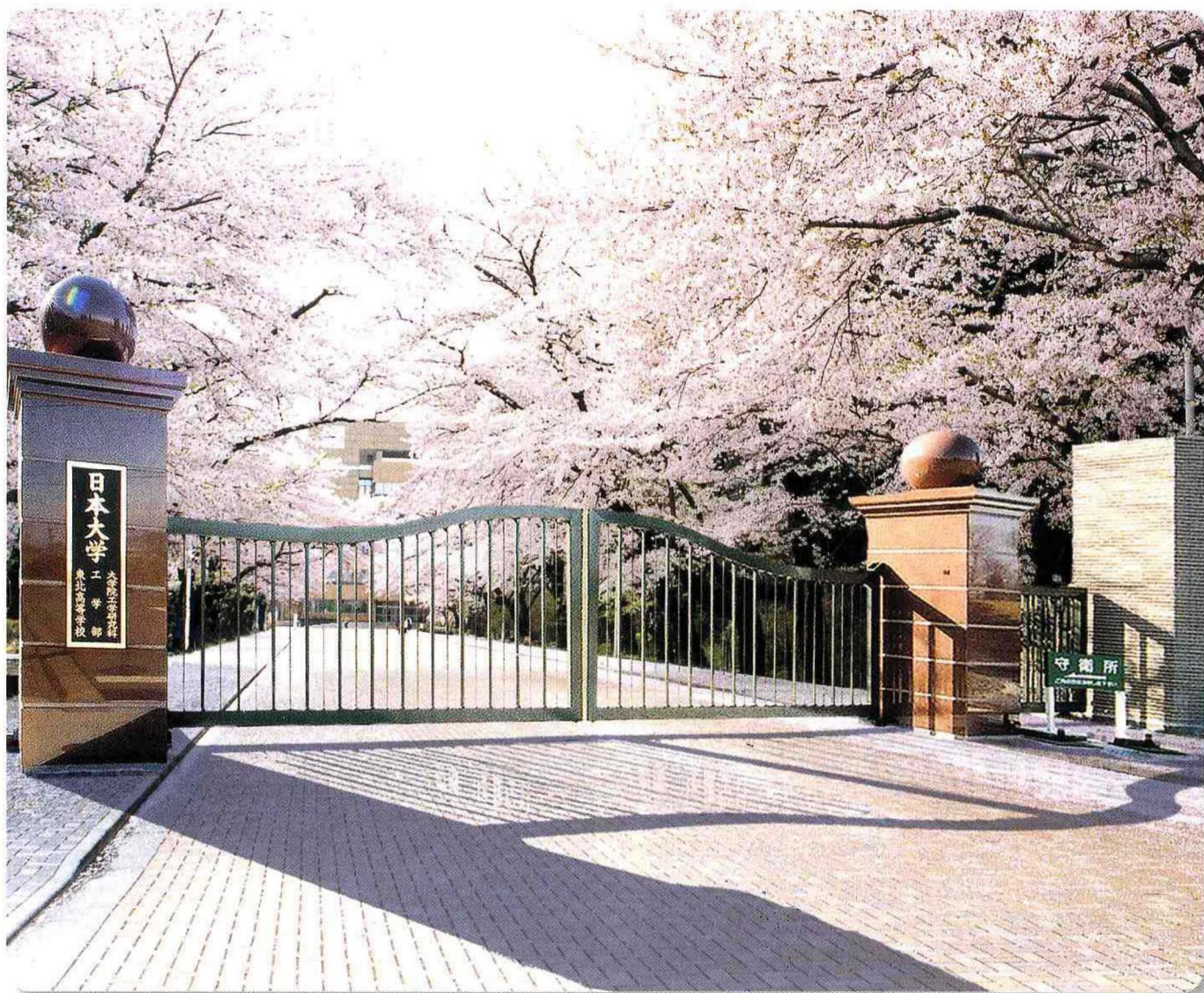
校友会報

第 69 号 平成 18 年 3 月 1 日

INDEX

ごあいさつ	2
平成17年度第48回通常総会報告	3
「母校を訪ねる会」第25回目を開催	4
クラブ・OB・OG会報告	12
支部活動	14
校友レポート	17

CAMPUS NEWS	19
工学部校友会の事業計画	21
創立60周年記念事業資金の寄付者名簿	21
校友短信	22
通常総会・母校を訪ねる会の案内	24



工学部正門

❖ごあいさつ❖



日本大学工学部長

小野沢 元久

平成 18 年の早春を迎え、校友の皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げますと共に、皆様の平素からの温かいご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、工学部では、これまで、文部科学省の補助事業の支援を受けた「次世代工学技術研究センター」及び「環境保全・共生共同研究センター」の二つの研究支援拠点を整備してきましたが、現在、多くの研究成果が芽をふいてきました。文部科学省の補助事業で取り組んでいる「サイバーキャンパス整備事業」においては、グローバルな技術者の育成をターゲットにした多くのコンテンツを配信するにいたっており、本年 1 月には、郡山商工会議所との間で、「産学連携（e ラーニング）に関する業務連携・協力に関する覚書」を締結して、より実務的な内容のコンテンツ配信が可能になります。更に、郡山地域の産業界からの要望の強かった「ものづくりインキュベーションセンター」の建設がはじまり、その運用が開始されれば、郡山地域の産業界の活性化がもたらされるものと期待されます。

このような取り組みは、研究・開発、産学連携の活性化に大いに役立つものと考えますが、大学の第 1 の使

命は、学生教育にあると肝に銘じております。学習環境の整備を目的に、工学部開設 60 周年に向けた事業として、新教室棟の建設に当たってまいりましたが、3 月末には完成の予定です。新教室棟の完成によって、すべての教室でパソコンをフル活用することができ、ユビキタスな学習環境が整備されたものと考えております。そのような環境下でどのような学生を育てるのか、そのシナリオが重要になります。工学部では、今の時代を読み解くキーワードとして、「ロハス」を掲げております。ロハス（LOHAS）とは、「健康を重視し、持続可能な社会生活を心がける生活スタイル」とされております。そのような生活環境を提供するための工学技術の構築とそれを可能にする工学技術者の育成がこれからの工学部の使命であると自負し、教職員一丸となって学生の指導・育成に望むことが重要であると認識しております。

そのような本学の教学戦略を可能にするには、今、社会で活躍する 4 万有余に及ぶ校友の力を借りなければなりません。校友の皆様、そしてその組織運営にあたる校友会には、今後とも、ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、校友会の益々の発展と校友の皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



校友会会長

加藤木 研

校友の皆様には新しい年を迎え、如何お過ごしでしょうか。昨年暮から本年の始めにかけて、日本海側にお住まいの校友の方々は大変な年明けだったと存じます。又、東北地方にお住まいの校友の方々も寒い日が続く中、体を大切にお過ごし下さい。さて私は、昨年 4 月の総会において、引続き会長に推され、二期目を引き受けました。今後一期 3 年間会長職を全うしたいと考えておりますので、宜しく御願い申し上げます。と云いまして校友の皆様協力なくしては会長職はつとまりません。どうぞ宜しく御願い申します。そこでまず第一の御願いがあります。それは校友の皆様御存知の様に、本年 4 月に新しい教室棟が完成します。この教室棟の完成により、生徒諸君にはあっちこっちに移動せずに授業を受けられるようになります。そこで校

友諸君に金額は問いませんので、御寄付の方をよろしくお願い申し上げます。次に、現在工学部の校友会は、北海道を始め九州まで 6 支部があります。又関東支部の下には東京支会を始め 5 支会があります。この各々の支部、支会の発展の為に、その地区の校友諸君は是非、総会に参加して下さい。皆様の参加がないと活性化しません。又、支部、支会のない府県におきましては、工科系校友会が組織されていると思いますので、これに参加して下さい。工科系校友会とは、理工学部、工学部、生産工学部及び薬学部の校友の会です。最後に、全日大の校友会に会費を納入する件です。前にも申し上げましたが、全日大校友会組織が独立しましたので、この運営に校友の皆様から年会費 8 千円を納入していただきたいのです。愛校心を發揮して是非納入して下さい。この稿を書いている時は本年 1 月です。新聞等によりますと、経済が多少上向いている様に感じます。校友皆様にも、これが影響して少しでも良くなればと願ひまして御挨拶とさせていただきます。

######

❖「母校を訪ねる会」第25回を開催❖

本年度で第25回を迎える「母校を訪ねる会」は北桜祭の黄金日、そして今年はオープンキャンパスという高校生を対象に工学部を知って頂く催しも同日に開催されました。そんな、賑わうキャンパスで、平成17年10月23日(日)に開催された。午前中は小雨が降っていて古田先生銅像前で写真撮影が危ぶまれましたが、出席校友の熱気と今回参加できなかった校友の思いが天に通じたのか、次第に晴れていきました。

今回、招待の対象卒年は、第3回(卒後50年目)、第13回(卒後40年目)、第23回(卒後30年目)、第33回(卒後20年目)の方々と、ご出席校友の総数は203名と、今までで最も多い来校者となりました。この会が25回を迎えられ、そしてこの盛況は、母校工学部と私ども校友会に対するご支援のものと深く受け止めております。工学部校友会が工学部との共催による第1回「母校を訪ねる会」が開催したのは昭和56年。企画した趣旨は、工学部の現状を是非みて頂き、更には校友の絆を一層深めていただこうと毎年開催しているものです。

当日は、午前10時から受付が始まりましたが、久しぶりの校友との出会いに大いに盛り上がり、ロビーは北桜祭に負けないぐらいに賑わいました。そして午

前11時30分から古田先生銅像前で記念写真を撮り、正午から50周年記念館(愛称:ハットNE)1階、学生食堂で懇親会が始まりました。小野沢学部長や加藤木校友会長の挨拶で始まり、料理、美酒、思い出の中、会は和やかに進行していきました。懇親会では校友代表として根本亮氏(工3回卒)、毛利安子氏(建13回卒)、勝又和成氏(土23回卒)から、現状などを交えた話をして頂きました。時間が過ぎるのも忘れるようでしたが会も終わりに近づき、復活して間もない應援団員の皆さんと母校と校友の更なる発展を願って、校歌を高らかに斉唱し、名誉教授である小倉 崑先生よる万歳三唱で第25回「母校を訪ねる会」が閉会しました。

出席の皆様には、前日は旧友と今日は恩師・先輩・同窓の方々と旧交を温め、そして未来の後輩になるかもしれない高校生も見ることができ、いつの日かの再会を約束して散会となりました。

ご都合がつかず、この度欠席された方々には、さぞ心惜しいことと存じますが、「母校を訪ねる会」は卒後何年目の対象と限らず出席されても結構ですし、もちろんご家族同伴でも歓迎致しますので、平成18年10月の開催には多数の方々の参加をお待ち申し上げます。



第25回 母校を訪ねる会(第3回・昭和29年度卒、第33回・昭和59年度卒) 平成17年10月23日



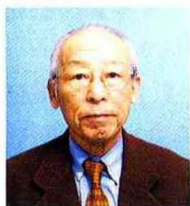
第25回 母校を訪ねる会（第13回・昭和39年度卒） 平成17年10月23日



第25回 母校を訪ねる会（第23回・昭和49年度卒） 平成17年10月23日

「母校を訪ねる会」で思うこと

土木 3 回卒 元千葉県企業庁 根本 亮



10 月 23 日の母校を訪ねる会にあたりまして、大学当局、校友会の役員の皆様有難うございました。厚く御礼申し上げます。歳月の流れは早く母校を出てから半世紀になります。この半世紀を振り返ってみると、戦後の荒廃した日本をどのように復興していくか大きな政策課題でありました。とり急ぎ、欧米の先進技術をキャッチアップして、ひたすら高度成長の道を歩み続けてきたと思います。大学はそれなりの学生を送り出せば事足りた時代であったのです。このような中、工学部卒業生は人並み以上に働き、認められ、各界各層で活躍されている同級生がいる事、誠に心強く感じているところです。

しかし、現在の情勢、大学をとりまく環境は激変しました。ご案内の 2007 年問題をはじめとする日本の少子化は、大学の存在にかかわる「大学淘汰」の時代に突入しました。はたして工学部は生き残れるだろうかと心配している一人であります。弱肉強食、いわゆる勝ち組負け組が明確になる社会構造、急速に進む先端技術、このような時代にどのような研究成果、教育を学生に提供するのか、又、工学部の地域性、いわゆる地元産業界との連携等、他大学と明確な差別化を考えないと学生は集まらないと思います。私は 30 年卒業以来、千葉県庁で工学部出身の優秀な後輩と共に、後に続く後輩達の事を考え頑張ってきました。しかし、その後輩達はここ十数年一人も入れません。さみしいかぎりであります。民間企業で活躍している他科出身の同窓生も、同じ思いであろうと考えています。先輩として言わせていただくならば、「工学部よしっかりしてくれ」と言いたいところであります。

さて、この課題の解決どうするか、いろいろあると思いますが、外部評価を積極的にうけ、工学部の体質が時代にあった体質で有るか、常にチェックする必要があると思います。

このような中、校友会も課題を整理し、大学当局にどのようにアドバイスし、又、サポートするか、考えていただきたい、と痛感した次第であります。

アカシア 40 会と母校を訪ねて

機械 13 回卒 中村 智幸

卒業以来 40 年、楽しみにしていた「母校を訪ねる会」開催に当たり、その前夜に同期会「アカシア 40 会」を、

「ホテルリステル猪苗代」にて開催しました。郡山在住の星君や多くの方のご協力を得ながら準備を行った甲斐あり、機械工学科 22 人、工業化学科 2 名の計 24 名の旧友が全国より集いました。

卒業以来、初めて会う人も多く、忘れていた顔もそこは同期生、話をするうちに 40 年前を思い出し、学生時代の気分に戻るのに時間は掛かりません。夜遅くまで酒を酌み交わしながら語り合いが続きしました。

この「アカシア 40 会」来年は北海道で行う事も決まりました。

翌朝は、ホテルのバスで母校へ、大きく発展した郡山の街を車窓より見ていると、まもなく懐かしい「金山橋」を渡り、母校に到着。私にとって卒業依頼 3 回目の訪問ですが、その都度キャンパスが立派になっており、改めて感激し嬉しい限りです。しかし、当時の木造校舎やアカシア林のキャンパスも、忘れる事は出来ません。

「ハット NE」での受付後、皆で我々の同期である小野沢副総長兼工学部長の部屋を訪ねて歓談、その席で、工学部長の大学についてのお話を聴き、母校工学部発展の原動力を感じました。

そして本館前中庭での記念撮影の後、懇親会が始まりました。機械工学科 13 回卒の参加者は 30 名。同期会に出席しなかった方とも、胸の名札を確認しながら懐かしく歓談、新たな同期生の情報交換も出来ました。最後に「若きエンジニア」を全員で歌った時は感激で涙をこらえる事が出来ませんでした。

懇親会の後は校内を散策、当日開催していた「北桜祭」を見学。我々の頃は数人であった女子学生が非常に多いのに驚き、時代の変化を実感すると共に華やかで活気に溢れているのを感じました。

有意義な 2 日間を過ごすことが出来、校友会関係者のご尽力と参加された皆様に感謝申し上げます。

最後に母校の発展と校友の皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます。



“ 母校を訪ねて ”

電気 13 回卒 坂本 忠夫

母校を訪ねる会を契機に、電気工学科 13 回同期会を

その前日の10月22日(土)、紅葉真っ盛りの磐梯熱海にて全国各地より総数30名が参集し、校友会長にも出席頂き久し振りの旧交を温めた。当日は雨天を物ともせず、午前中ゴルフ元気組を含め皆で往事にタイムスリップし、久し振りの再会に時の経過も忘れ大いに談笑、痛飲、更には夜を徹して各部屋での人生論等で大いに盛り上がり、翌日母校訪問会時には少々酩酊、睡眠不足気味であった。

電気13回生は、現役教授小林君の音頭宜しく平成14年に還暦を記念し、磐梯高原での同期会、母校訪問を実施済みで今回3年ぶりの再訪、時に北桜祭真っ只中、後輩達に混じる黄色い呼び声に迎えられて同期生31名が懇親会に臨んだ。工学部の近年の変革については、ここ数年間の経歴さえ知悉あたわざるも、工学部長の意気軒昂な心意気に接し大いに触発され、元気づけられると共に二日間に亘る同期、校友、学校関係者から摂取した活力を糧に我々爾後の人生を尚一層飛翔させねばならぬとの感を深くした。懐旧に浸り学校周辺に散る者、下宿先を訪ねる者、はたまた昔日の夜の戸張と久闊を叙す者等々和気藹々と過ごした時間も瞬時に終了、更なる同期生の交流、再会を約し母校を後にした。



「母校を訪ねる会」に参加して

工化13回卒 岩堀 富夫

我々は学生時代の仲間とアカシア40会を結成し、旅行を兼ねた懇親会を毎年開催しています。幹事から、今年は我々にとって10年に一度の「母校を訪ねる会」が行われる年だから、前日は猪苗代のホテルに宿泊し、アカシア40会の懇親会を開催して、「母校を訪ねる会」に参加しようという提案があり、即参加することに決めました。

この会は機械工学科の仲間が主体ですが、東京から猪苗代までの車中では缶ビールを飲み、昔話をしながら大変盛り上がりしました。それ以上に猪苗代のホテルでの宴会では学生時代の言葉が飛び交い、それは、それは盛り上がったものでした。次の日、ホテルの送迎バスで母校を訪問しました。我々の時代は質実剛健がモットーで、何か灰色かった暗い雰囲気のような気がしていましたが、今、そこで目にした光景は服装も鮮やかで明

るい笑顔の多くの女子学生と今風の男子学生が渾然一体となっている母校がありました。我々の時代とは正に隔世の感があると感慨無量でした。

会場の受付で、工学部広報や学部長の著書「仏作って魂を入れる」等を貰って懇親会場に入ると、数は少ないが工業化学科の仲間がおり、旧交を温め、楽しく会食をする事が出来ました。アカシア40会のメンバーとは自由解散し、主に下宿時代の仲間と学部長が紹介してくれた大学の研究施設を見学しました。そこには最新の研究施設があり、今の学生は大変恵まれていて幸せだと痛感しました。

母校は想像以上に立派になったのが確認出来たし、数多くの仲間とも楽しく有意義な日々を過ごすことが出来、大変思いで多い「母校を訪ねる会」になりました。帰宅後、学部長の著書「仏作って魂を入れる」を貰ったことを思い出し、早速、読んでみました。そこには母校が抱えている多くの課題と解決策が書かれていると感じました。是非、その課題解決の為に学校関係者並びに学生の皆様の益々のご活躍を期待しております。

工化13回卒 渡辺 克孝

この度、母校日大工学部からのご案内もあり、思い切って「母校を訪ねる会」に参加させて頂くことにした。この会は、卒業後10年毎に開催されているということは、「校友会会報」等で知っていたが、遠隔地であり且つ現役で仕事をしている時は、なかなか纏った日数が確保できないこともあって、参加できなかったが、今回の案内で、嘱託で働いてはいるものの、退職後4年程経ち組織から離れスタッフの身軽さから、家族で参加出来たことは、良い思い出に残った。

宿は、レンタカーとナビの力を借りて、郡山市徳定の地から少し離れた那須塩原の那須高原にあるホテルとした。ホテルの窓から見る景色は、紅葉が始まり、那須岳(茶臼岳1915m)の全山が赤と黄色に染まって綺麗であった。ここで、今回はこの会に出席できなかったY氏ご夫妻に会い、昔の話に花が咲き旧交を温めることが出来た。

昭和36年3月23日に入学手続きのため、大学を訪れたときは、前夜来の雪で膝の下23cmまでの積雪で、その雪の中を通称「日大通り」の神明下から日大まで歩いていった記憶がある。また、当時、離れの部屋の中の「やかんの水」が凍っていたり、戸外に干した洗濯物が凍っていて取り込まれず翌日の昼迄干していた記憶等があるが、どれも皆今は楽しい思い出である。それまでの九州における生活の中では、体験したことのないことであった。

また、今回は、合気道部の草分けの頃(第3代)同好

会として練習に励んでいたもので、演武会を是非参観したいと思っていたが、前日に終わっていたのは、残念だった。次回は、参観したいと思っている。

同期の方に会い、話はどうしても、昔の下宿の話やその周辺の思い出になってしまうので、その後、交わした手紙より少し引用したい。

『また、大学も、Sさんの下宿も、Mさんの住宅も、E商店の店舗も、訪ねて回りましたが、時の流れは速く、残念ながら不在の所も有り、そういう中で、私も遠い記憶を手繰り寄せながら、下宿周辺の著しい変化とその当時の頃の思い出を結びつけるのに、多少の時間が掛かってしまいました。』

ただ、E商店のおばあちゃん(83才)がお元気で、聡明で、且つ当時の話しを、皆で十分に出来たのが一番の幸せでした。

さらに10年後に、再び、東北は郡山の地でお会い出来ますよう祈念致しまして、お礼の便りと致します。

平成17(2005)年10月31日』

併せて、「母校を訪ねる会」を開催していただきました校友会事務局を始め、関係者の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。 H 17. 11. 1



母校を訪ねる会に参加して

土木23回卒 菅家 和洋

光陰矢のごとし、学部を卒業し30年に今回の母校を訪ねる会に参加をしました。

母校を訪ねる会に先立ち、郡山ビューホテルで同窓会を開催しました。

前日の夜、家で30年前の卒業アルバムを見て、同級生の顔を脳裏に焼き付きました。

当時、私と古河君(工学部土木科教授)が卒業アルバムの編集委員をし作成したことが思い出されます。

当日、午後6時から開催された同窓会今回は42名の出席でした、南は岐阜県北は北海道と遠路集合、盛況に開催されました、私は前回出席しなかったので30年ぶりの再会となる同窓生が多数居ました。アルバムの顔を思い出し懐かしい顔に会えて、楽しく酒を酌み交わしま

した。

外見は、年相応になっていましたが時間が30年前に戻り、クラブのこと・学校のこと思い出話に花が咲きあつという間の2時間でした。2次会・3次会は各自思い出の場所があるようで、三々五々時を過ごしたようです。

母校を訪ねる会は、23日に62号館で開催されました。丁度学園祭が開催されていて屋台たくさんあり、我々の時とは様変わりしたように思えました。

私は、息子が土木工学科を卒業したと言うことで、在学中に1回学部際を見に来たことがありました。親子で学部にお世話になり本当に良かったと思います。

懇親会に先立ち、中庭での写真撮影、アサカ写真館の親父さんの名調子が健在で、懐かしく思いました。

懇親会では、先生方との再会・他学科との同級生との再会と思いで深い会になりました。

最後に、我が同級生の応援団の勝又君のリードで校歌を斉唱し、次回の再会を約束しそれぞれ、帰路に就きました。

最後に、今回御尽力された、幹事の皆様には書面をもって、厚く御礼申し上げます。



卒業後30年 「母校を訪ねる会」に参加して

建築23回卒 三井 千治

昭和46年入学と同時に特に知り合いもいなかった私は日大俊英学寮で一年間お世話になりました。8畳ぐらいの部屋を2名で使用したわけですが、そこで初めて出会った同居人というのが、たまたま同じ郷里で同じ建築学科の内田君でした。今回は彼と一緒に大学時代のことを語りながら前々日に郡山にむかいました。・・・というのは、俊英学寮で親しくなった仲間を中心に昭和50年に卒業した25名あまりで十数年前から「日大50会・同窓会」を2年から3年ぐらいの間隔で行っており、今年は「母校を訪ねる会」にあわせ磐梯熱海に15名が集合し、前日にゴルフや宴会等を楽しみました。

「母校を訪ねる会」当日は、受付をすませ時間が少なかったもので、本館の方から思い出のある寮までを皆でゆっくりと歩いてみました。全てが変わり、特に正門にむ

かつて右側の当時平屋の実験棟のあったところは昔が思
いおせないほどの様変わりに驚きました。唯一図書館
だけが変わらず懐かしさを思い出させてくれました。途
中のグランドもいろんな附帯施設が整備され、ゴルフの
練習場も新たに見ることが出来ました。現在の学生の豊
かさを感じながら毎日通った道を歩くと俊英学寮にたど
り着く。ブロック造2階建ての建物は、今も当時のまま
建っていました。思わず玄関前で記念撮影をしました。

中庭での卒業年度ごとの記念撮影後、懇親会は始まり、
30年ぶりに会う友人達とあつという間のひと時を楽しく
過ごすことができました。しかし、今回建築を卒業した
仲間たちとの再会を楽しみにしておりましたが参加者が
少なく寂しさもありました。次回10年後の集まりには、
同じ建築学科23会の卒業で工学部にて教鞭をとられて
いる土方吉雄助教授に多くの人に参加する様、お願いを
したいと思います。

最後に「母校を訪ねる会」の関係者の皆様に感謝する
とともに日本大学工学部の更なる発展をお祈りいたしま
す。



二つのクラス会と 「母校を訪ねる会」に参加して

機械23回卒 平林 眞

機械工学科第23回卒業生の30年ぶりの同窓会が、
磐梯熱海温泉「なでしこの宿 大和」で、恩師お二人
と同窓生10人の参加により行われました。久しぶり
に会った同窓生は、気持ちだけは学生時代に戻って
いましたが、さすがに五十路を過ぎると、髪は薄くなり
白髪が混じり、小さな文字を遠く離して見る様になっ
ていました。

幹事の挨拶に続き、長年、校友会会長を務められた
佐藤光正先生から近況と母校を訪ねる会の由来をお聞
きし、今村仙治先生からは研究に没頭されている様子
をお聞きしました。乾杯の後、学生時代の思い出と近
況報告をしましたが、皆それぞれの専門分野で活躍し
ており、卒業後の30年を語るには時間が足りませ
んでした。飲み放題の時間もあつという間に過ぎ、別
室の二次会場には、後から駆け付けた一人が加わり、
日付が変わるまで酒を飲み交わしました。

翌日の母校を訪ねる会では、他の同期生と合流し、
懐かしい旧友との話は付きませんでした。懇親会終了
後は、小野沢学部長室を訪ね、著書に自筆のサインを
していただき、その後、幹事の藤原雅美教授の材料強
度物性研究室を訪ね、研究内容や実験装置について真
面目な後輩から説明をしていただき、密度の濃い充実
した時間を過ごすことができました。

終わりに、このような機会を企画してくださった同
窓会幹事と、学部並びに校友会の皆様には厚く御礼申し
上げます。



機械23回卒 松林 秀夫

「母校を訪ねる会」に先立って、10月21・22日磐
梯熱海四季彩一力で、俊英学寮出身の同窓会が、大歓
喜のなか爆発的に開催された。時同じく22日、なで
しこの宿大和で、機械工学科23回の同窓会が、親し
く家族的に開催された。どちらもS50年3月卒業生
である。機械工学科の恩師でもある佐藤光正・今村仙
治両先生の御臨席を賜わり、総勢12名で10年ぶりの
再会（一部の方は30年ぶり）を果たした。参加した
メンバーのほとんどが、元工学部長広川先生のチタン
研究の卒研仲間であった。その教え子の代表が藤原雅
美教授である。筆者は小野沢工学部長の卒研であつた
ので唯一部外者として参加した。小野沢先生の卒研仲
間とは、年賀状のやりとりはしているものの、10年
前も今回も不参加ということで会うことは叶わなかつ
た。機械工学科出身の小野沢工学部長並びに藤原教授
がいて、参加する方も参加しやすいし、思い入れが
強くなるものである。片方の寮の方は、総勢13名～
14名と同じく10年ぶり（一部の方は30年ぶり）を
果たした。寮の同窓会の特徴として、10年前に参加
したメンバーが13名中5名と、ほとんどが入れ替わ
りであった。どちらも久しぶりの再会を喜び、お互い
の変貌ぶりを確かめ合っていた。懇親会の内容はどち
らも、自己紹介・近況・仕事・家族・今後の事など
について報告し合った。二次会では同じく学生時代の悪
行・裏話で盛り上がった。寮の方は22日の日中は、

郡山熱海 CC で、ゴルフ好きがコンペを満喫した。

23 日の「母校を訪ねる会」の当日は、あいにく小雨模様でしたが、古田会頭銅像の前で恒例の記念写真に収まった。その後 50 周年記念館（ハット NE）に場所を移して、和やかに「母校を訪ねる会」がスタートした。渡辺庶務課長の進行のもと、小野沢工学部長が挨拶を述べた。大要は「創設 60 周年記念教室棟」の寄付であった様に理解している。佐藤事務局長の乾杯の音頭で懇親会へと移った。途中応援団復活の経緯の話があり、現役応援団と OB の披露があった。時代の差を感じた次第であったが、熱くこみ上げるものがあり、夢中でデジタルカメラのシャッターを押しまくった。中野校友会副会長の閉会のことばで一切を終了した。

今回も参加して思うことは、郡山の街並と母校のキャンパスを拝見して、あまりの変貌と発展ぶりに、只々驚きと感激の連続であった。10 年前と比べても目を見張るものがあります。その代表的なものが、「次世代工学技術研究センター」「環境保全・共生共同研究センター」そして「創設 60 周年記念教室棟」である。あらためて工学部の歴史と伝統を身に沁みて感ずると共に、アナログ的器の建物が消えゆくなかで、生き物の如くまるでサイバーキャンパスに生まれ変わろうとしている。一番田舎の郡山工学部が、まもなく日本大学のなかでも質・量と共に、TOP になることは間違いないと確信した。またキャンパス内の学部祭を見ても、今風の学生らしく明るく生き生きとしていた。そして女子学生の多いことも驚くと同時に、一緒になって頑張っている姿は、私達の男だけの時代と違って、羨ましくも思えた。更に不思議に思ったことがあった。体育会系の「押忍」のでかい声が、一度も聞こえないことであった。新旧の時代の流れを肌で感ずるとともに、工学部で学べたことの感謝と卒業生としての、自信と誇りがふつふつと湧いてきてやがて涙が変わった。すべてここから始まっているからである。こうして仲間達を再会させてくれる「母校と校友会」の御尽力に感謝を申し上げますと共に、益々の母校の発展と校友の御健勝をお祈りいたします。



『母校を訪ねる会』に参加して

電気 23 回卒 山内 伸介

『母校を訪ねる会』開催のご案内をいただきました。すでに卒業後 30 年、校友会報で母校や交友の情報はいただいておりますが、あの時から変わった母校を実際に自分の目で見たくなり、参加させていただきました。

訪ねる会前日には電気科第 23 回卒業生の同級会が校友会常任幹事長澤様のご出席を頂き、総勢 18 名で開催されました。薄れていた記憶の中から級友の名前と顔を徐々に思い出しながら、当時の情景を頭に浮かべると話が尽きず、時の経つのも忘れるほど大いに盛り上がりました。我々はもう 50 代前半、最近では特に健康に気を使いながら管理職として活躍されていると思います。これからも同級諸君のますますの発展を祈るところです。

当日、母校では北桜祭が開かれており、門から入ると我々のために歓迎会を催しているようでしたが、その学園祭の様子をみると当時とは隔世の感があります。

正門から見た風景も当時とは違い、立派な施設が立ち並び、より魅力的なキャンパスになっている事を実感しました。正直、現学生が羨ましい気がします。

訪ねる会では楽しいひと時を過ごすことができましたが、こういうときは時間の経つのも早く瞬く間の時間でした。

これからも母校のますますの発展をご祈念申し上げますと共に、この機会を下さった工学部、校友会の皆さまに感謝いたします。そして、同級会開催にご尽力いただいた地元郡山で活躍されている級友の皆さんに感謝いたします。



松明あかしに魅せられて

工化 23 回卒 北山 義晃

平成 17 年 9 月初旬、一通の手紙を開封すると、懐かしい手書きの文章が目に入りました。柳沼先生が書かれたもので、3 年に一度の燃料研究室の O B G 会の案内でもありました。

O B G 会も今回で第 4 回目となり、小生も卒業 30 年の節目ともなりました。開催場所は須賀川で「松明あかし、400 年の歴史的な日本 3 大火祭り、須賀川城の落城、霊の弔い・・・」と書かれておりました。

恥ずかしながら 4 年間郡山で勉学に励んでいた？小生にとって須賀川の印象は、梨のなる頃に夜陰に紛れて梨狩りをした（もう時効ですよ！）程度でありましたので、このような催しがあった事は全く知りませんでした。

11 月 12 日（松明あかしは 11 月の第 2 土曜日に開催）、宴会場「聞香庵」で O B G 会が盛大に開催されました。この宴会場から眺める 30 本もの大松明の炎が揺れる様子は壮観でした。また沢山の福島地酒も振舞われ、同行した妻も松明よりもお酒のほうに堪能していたようでした。

我が母校も随分変貌を遂げ 30 年前の面影を探すのが難しくなりつつありますが、「まだまだ知らない我が母校周辺」の発見に訪れるのも良いのではと思う O B G 会でした。



卒業から 20 年

機械 33 回卒 遠藤 仁一

今回の『母校を訪ねる会』に出席できなかった機械工学科第 33 回卒業の同級生の皆さん、元気でお過ごしでしょうか。母校を卒業後、あれから 20 年経ちました。時間の流れは早いものです。先日招待された母校を訪ねる会と前夜に行った同級会について、雰囲気を感じ取ってほしいと思い筆をとりました。先ず、同級会は『中国料理 珍満』で開催されました。参加者は 8 名で少人数での宴となりましたが、おいしいお酒と料理に囲まれ、話題は在学当時の悪行と講義の思い出が主でした。なんといっても、製図の思い出がみんなの心にしみついており、当時の必需品「ガラステーブル」の話題で盛りあがりました。参加者は当時の顔なじみばかりでなく、初めて顔を合わせた同級生もありました。それぞれが、昭和 50 年後半にタイムスリップした貴重な時間となりました。

翌日の『母校を訪ねる会』は、記念写真を撮り、

その後の懇親会にも参加しました。私は地元に住んでいるので、母校には卒業後も北桜祭や仕事の関係で訪れていますが、当時と比較すると敷地内の建物の新築化に驚かされます。『母校を訪ねる会』と同時に北桜祭も開催されており、後輩たちの元気な姿と活気ある学園祭を楽しむことができました。

今回参加できなかった同級生のみなさん！機会があったらもう一度、同級会を開催してみませんか？きっと、いい時間を過ごせるはずですから。また、今回ご出席のみなさん！また連絡をします。では、毎日健康で過ごせますように・・・。

母校を訪ねる会に参加して

電気 33 回卒 木村 誠聡

卒業して早や 20 年、すでに私たちの世代も 40 代前半になりますが、とうとう母校を訪ねる会の案内が来るようになりました。当日は 10 月の下旬とはいえ、東北地方はすでに寒く、また今にも雪が降りそうな天気。関東の暖かな気候に慣れている身としては寒さが堪えましたが、大学について元気な学生を見ていると昔部活で北桜祭を駆けずり回っていたのを思い出しました。

私は高校 3 年生になる息子を連れて行きましたが、昔と変わらず大学の周りに何もない様子を見てびっくりしていました。大学に到着して正門からメインストリートを歩くと新しい建物が幾つも建っていて、大学が活発に環境を充実させている様子が伺えます。しかし、電気工学科の研究室があった 15 号館は昔と変わらず、今も学生が活発に研究をしているのだろうなあと自分が過ごした日々をふと懐かしく思い出していました。

懇親会では懐かしい先生方や同級生がおり、特に松塚先生、長澤先生、同級生である黒河君、附田君らと一緒に語ることができ、非常に有意義なひと時を過ごす事ができました。松塚先生はご引退されておりますが、まだまだ矍鑠としておられました。

今回参加できなかった同級生諸君には是非次回の母校を訪ねる会で会いたいと切に願っております。



❖ クラブ OB・OG 会報告 ❖

『喜寿』の祝クラス会

土木1回卒 国分 貞典

私達のクラスは戦後の学制改革に伴い新製の工学部に昇格すべく昭和22年に駿河台から移転して来たばかりの専門部工科土木科に入学した仲間達で、軍隊や海外からの引揚者なども多数居り、年令もまちまちで本当にバラエティーに富んだクラスです。

去る11月初め、紅葉で美しい安達太良山麓の岳温泉にクラスメートで一番若い人が『喜寿』を迎えたのを祝して集り、秋の夜長を温泉に入りながら昔話に華を咲かせました。

私達に入学した頃の校舎は戦争中、海軍航空隊が仕様していた木造兵舎をそのまま転用したもので、風雪をやっと凌げる程度の建物で、冬は教室の片隅に火鉢が一つ置いて有ると云った状況で震えながら先生の講義をノートしたのですが、それでも勉強に対する熱意は旺盛で戦争で荒廃した国土の復興は俺達がやるんだと張り切って通学したものです。

あれから早いもので私達も年を重ねて爺さんの年代を迎えてしまいましたが、その間、日々に学び、社会人としては昭和30年～50年代の日本の高度成長期の担い手として活躍出来ました事を誇りに思い感謝いたして居ります。

母校も来年は目出度く創立60年で還暦を迎えるわけですが、開校以来、親、子、孫、と三世代に亘りお世話になった仲間も居り、昭和25年に最初の卒業生として専門部工科生300名でスタートしました工学部が、近々中には校友が5万名にも達するそうですが、母校のますますの繁栄と校友のご健勝を祈念申し上げます。



日本大学工学部管弦楽部 OBOG 会

運営委員・広報担当 桃井 忠男

《今年の総会は工学祭の22日、郡山で開催》

第6回オケOBOG会総会及び懇親会は、工学祭に合わせて10月22日(土)に郡山駅前の「郡山ビューホテル・アネックス」4階『山桜』で行った。

外は氷雨。司会は、総会は杉坂宏欣氏、懇親会は羽鳥勝美氏が当たり、現役4名を含む22名の仲間と和気藹々の中で進行した。

総会では昨年度の活動方針で承認された①運営委員会計担当・小川明彦氏の長期海外出張に伴う後任に桜井泰弘氏が当たる件②会計担当の交替により振り込み新郵便局口座が『記号10530番号65105371』へ変更になった件の再確認③会計報告の承認、今年度の活動計画で④平成17年7月31日任期満了になる運営委員(千秋暢良、曾木新六、桃井忠男、杉坂宏欣、羽鳥勝美、小川明彦、吉田宏、宮沢真彦)8氏の再任同意⑤活動方針の確認と承認を行った。

千秋会長は「今年の総会のお知らせでは、昨年の第5回総会の模様を記載した広報・NEW アルモニア17号を添付して住所が確認できた110名に通知し、沢山の仲間から「仕事に趣味に奉仕活動に活躍している」近況報告を受け取った。その中から今日は元気な22名の仲間が集まり、再会できたことは嬉しい限りです。今後もリタイア組の音楽活動への参加が増えるでしょうから、この会は大きな音が出せるように続けよう。また今回の郡山開催するに当たっては、同市在住の三宅哲氏が総会・懇親会会場やエキジビション演奏練習場の確保にご尽力いただいた。改めてお礼を申し上げます」と挨拶された。

総会には、久しぶりの木村吉和氏、奥田眞久氏、橋本隆氏、中林弘行氏の顔があった。懇親会で演奏された曲目は①モーツァルト ディベルティメントニ長調 KV 136 第2楽章 ②ハイドンのセレナーデ ③

冬のソナタより「はじめから今まで」④村祭り ⑤ふるさとの親しみのある5曲だった。昨年に引き続き参加された津川博保氏が演奏にも加わり素晴らしい音色を聞かせてくれたし、郡山近郊で音楽活動を続けている中林弘行氏、橋本隆氏、浜尾博文氏、菅田先生など強力メンバーの参加もあり、常連(千秋、杉坂、桜井、森和子、指揮者・羽鳥)の皆さんと共に重厚な音を奏で、演奏者も聴衆も感激し合った。更に懇親会を盛り上げ

てくれたのは、現在いる部員のうち佐藤祐(修士課程)、富士卓也(三年)、廣川卓(二年)、大久保和也(一年)の4君が駆けつけて「今日は日中に工学祭で記念演奏をしてきました」など、演奏活動の近況報告をしてくれたことだった。OBOG 仲間は、学生時代に楽器を肩にして練習会場を渡り歩いたことを思い出し、「専門の学問以外にも燃える趣味を持つことが人生を豊かに楽しくする」ことを改めて感じながら、現役生の挨拶を感慨深そうに聞き入った。

今回の郡山総会に参加された仲間の多くは、母校訪問、かつてお世話になった初代指揮者婦人・鳥居千代さん(92歳)の激励、下宿の叔父さん・おばさんなど“青春時代の思い出探し”にも駆け足で歩き回り、二次会では、その報告もあって賑やかな時間を過ごした。

【写真は、前列中央に現役4名を加え勢揃いした参加者の皆さん。撮影は、遠路駆けつけてくれた小川明彦氏。】



サッカー部OB会

土木41回卒 会長 森川 清

昭和47年9月2日 故廣川先生の始蹴式の後、本田サッカー部長(現在サッカー部顧問)の笛により、宇都宮にて第一回日大工学部サッカー部OB会が開催された。当日は、若手OBと現役学生との交流試合を皮切りに、OBによる東西戦・超OB戦と行なわれた。

サッカー部OBは、今から34年前現役サッカー部との交流、発展向上等を目的として故廣川先生並びに本田先生と当時の現役学生達の尽力の下、発足しました。

以来、34年間毎年欠かさず開催され、部員も北は北海道、南は沖縄と全国に散らばっており、部員数は300名を超えるOB会となっています。

第二回目は浦和、第三回目以降数年間は工学部グラウンド、その後は郡山と東京で交互に開催されてきました。ここ20年は関東でのグラウンドの確保が困難となり、郡山で行なわれています。

平成17年度OB会は、7月30日(土)午後1時よ

り郡山西部スポーツ広場で30名の参加のもと開催された。例年通り、まず若手OBと現役学生の交流試合を行い、最終のOB東西戦と久しぶりのサッカーを堪能した。試合終了後、総会を開催し事務局より平成16年度の会計報告、来年のOB会開催予定等が決定された。

懇親会は、午後7時より現役学生も含めて工学部郡山研修会館で行われた。

会長挨拶、現役への支援費用の授与、サッカー部高橋部長の学校並びにサッカー部の現況報告、主将の決意表明(特に今年は天皇杯県予選で順調に勝ち進み、8月20日に福大と準決勝、21日に決勝と天皇杯全国大会への道が開けていました。・・残念ながら準決勝で敗退)があり、最後に校歌を斉唱し懇親会を終了しました。懇親会終了後、市内に繰り出し郡山の日を過ごし旧交を深めた。

平成18年度のOB会は、平成18年7月29日(土)郡山にて開催予定です。是非参加頂き一日サッカーを楽しんでください。

なお、サッカー部誌「サッカー部の歩み」も第3号(平成5年までの記録)まで出版し近々第4号を出版する予定です。

また、日大工学部サッカー部のホームページを開設いたしました。是非ご覧下さい。

<http://www.geocities.jp/fcnitidaikou/index.html>



❖ 支 部 活 動 ❖

北海道支部活動報告

北海道支部長 岡本 繁美

本年度支部総会は4月8日本部より加藤木会長をお迎えして、北海道支部会員60余名の参加により例年通り、総会及び懇親会を行いました。懇親会では思いで話を華を咲かせ校友各位の、近況報告などで時間も忘れ話し込みました。2次会にも20名近くの出席があり、次回の総会での再会を誓い絆を深める一日となりました。9月22日には、釧路にて、支会主催ミニ同窓会には札幌より役員など6名ほどが参加し合計40名弱での懇親会を行い、皆様方の近況報告、次の日は、ゴルフに16名参加し、楽しい1日を過ごしました。10月2日には函館にて、道南支会を行い、二十名近く集まり、札幌から成田幹事長が出席し、近況報告などに大変楽しいひとときを過ごしました。函館支会はこの様に北海道支部は8支会でも懇親会を行い同窓仲間の絆を確かめ、仕事にも同窓が協力し合える様と思っています。18年も4月上旬に、同窓会総会及び懇親会を札幌にて行い、又、函館で10月頃に支会懇親会（ミニ同窓会）を予定しそれには北海道支部長ほか役員も出席しようと思っています。年末の12月17日には、役員会を開催し、来年度の予定など討議を重ねます。尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒業生の参加を歓迎しています。

関東支部活動報告

土木14回卒 千葉県会長 藍 重光

土木26回卒 同事務局長 千葉 朋幸

会計検査院課長の盛武健二氏（土木17回卒東京都会長・千葉県在住）は永年の経験を踏まえ、「建設マネジメントの歴史的変遷に関する研究」で見事、本学の学位を取得されました。



これを祝う会が平成17年5月14日（土）ホテル・ポートプラザ千葉で藤田龍之教授を来賓にお迎えし、支部の近県から53名のご参加を頂き盛大に開催されました。当日は根本亮氏（土木3回卒）の発起人挨拶に始まり、藤田教授、盛武氏の並々ならぬ苦勞話や後に続く人が出ることを期待する話に宴は盛り上がりしました。最後に応援団OB会長深野一男氏（土木20回卒）の気合の入った校歌斉唱で祝う会を閉じました。

第2回栃木県校友会総会、懇親会報告

土木14回卒 会長 星野濱三郎

機械29回卒 事務局 永田 直史

栃木県校友会総会、懇親会は、去る11月12日宇都宮市内の二荒山会館で70名の参加を得て開催いたしました。当日は、日本大学校友会栃木県支部長であり栃木県知事の福田富一様はじめ衆議院議員の佐藤勉様、栃木桜工会の宮崎様、工学部より依田先生、村田先生、校友会関東支部長の児玉様、千葉県校友会々長の藍様をお招きし盛会に開催することができました。

総会では、すべての議案については原案通り承認をいただいた後、工学部の依田先生からは学内の近況を含めたご挨拶と、校友会からは村田先生より校友会の近況を含めたご挨拶をいただき、参加者一同懐かしきかつ興味深く聞かせていただきました。

懇親会におきましては、先輩、後輩と昔の話に花を咲かせ酒を酌み交わしながら語らい、最後には現役応援団リーダーによる日本大学校歌と若きエンジニアでしめ、お開きとさせていただきました。

今年度、役員側としまして県内に在住の女性の校友に何とか出席してもらうよう8月頃から活動してまいりましたが残念ながら各位のご都合により出席をいただけませんでした。来年度以降につきましては、各科より多くの校友が参加できるよう活動してまいります。



北陸支部活動報告

建築 14 回卒 支部長 鈴木 隆

校友諸兄におかれましては益々御清祥のことと御推察申し上げます。当支部新潟県は一昨年の集中豪雨、昨年の新潟中越地震、今年末の豪雪と三年連続で県内を襲った自然の脅威は物神面に大きな被害をもたらしたが、校友一同はこの難局を乗り越るべく持ち前の魂で頑張っております。

今年度の主な活動は、8月6日新潟市内のホテルにて本部加藤木会長御臨席のもと、第5回定時総会を開催し、30余名の出席者からは魅力ある支部づくりに積極的な意見が交わされました。総会後の懇親会は恒例となった父母会との合同で行い、父母からは就職関連の質問が多く出て、新社会人になった会員の「新人社員の実状と会社のニーズ」についての話に興味深く耳を傾けておりました。中には「是非貴社に入社させてほしい」等の要望もあって最優先を約束している様子と窺えました。又11月13日には20名参加での懇親ゴルフ大会を開催し、三連覇に挑んだ12回建築卒田中定男氏を37回土木卒の村山恭一氏が阻み念願の初優勝を飾りました。

まだまだ弱体支部ですが他支部の活動状況等を参考にしながら、活気ある支部づくりに邁進いたす所存です。ので何卒御指導賜りますよう宜しく御願い致します。



東海支部活動報告

土木 29 回卒 東海支部会計監査 鈴木 太

校友の皆様方には益々御活躍のことと心からお慶び申し上げます。

平成 17 年度支部活動は、懇親ゴルフコンペ、例年は春と秋に開催の予定が調整がつかず秋 1 回となりました。[10月29日(土)富士カントリー明智ゴルフクラブ 参加者 10 名]

支部総会は7月22日(金)に名古屋駅前のホテルキャッスルプラザで校友 30 人の参加で開催しました。

川村支部長の開会の挨拶に引き続き、来賓の校友

会の加藤木研会長及び出村克宣建築学科教授の両名の方から校友会及び学内の状況を含めた御挨拶を頂き参加者一同懐かしく且つ興味深く聞かせていただきました。

続いて年間活動報告があり原案どおり承認され総会は終了しました。

その後の懇親会では、酒を酌み交わしながら楽しく歓談し、最後に日大校歌を円陣になって歌い、お開きとなりました。

また、年末に恒例の忘年会 12 月 1 日(木) 富士塚荘、参加者 26 名で行い鍋をつつきながら 1 年の垢を酒で洗い流しながら楽しい時間を過ごしました。

さて、昨年は「愛・地球博」が開催され、入場者も予想を上回り、最終的には 2 千 2 百万人を超え、大成功に終わったと聞いております。当支部は、年々参加者数も減少傾向にあり「愛・地球博」のように予想を上回る参加者にしたいものです。東海地区に在住、在勤してみえる校友方々のより多くの参加を希望しております。

「一年に一度は、昔を懐かしみ日大校歌を歌いましょう」



静岡アカシア会報告

土木 27 回卒 会長 大澤 俊幸

工学部校友会東海支部・静岡支会は『静岡アカシア会』という名称のもと、先輩諸氏の暖かいご指導をいただきながら、強い団結力を誇りに活発な活動を展開しております。

本年度は、8月6日(土)静岡市内にて学部・父母会・校友会が一体となった工学部懇談会が開催されました。会ではとくに厳しい就職戦線の中、後輩の学生の就職活動が円滑に進むように保護者にアドバイスをを行いました。

開催決定が急なこともあり、静岡市内を中心とした各種の業界の校友のみに声を掛けさせていただきましたが、皆様後輩の為に一つ返事でお忙しい中ご出席いただきました。これはまさに 50 余年の『家族大学・

工学部』の歴史と日本大学一の強い団結力を誇りアカシアの森で青春時代を過ごした工学部校友の熱き思いのおかげであると確信いたしました。

現在、各大学とも18歳人口の激減で厳しい時代を迎えておりますが、わが工学部は全国の工業高校に勤務する工業教員の数では全国一の数を誇っているというあまり知られていない特色をもっております。当静岡県内のすべての工業高校にはわが工学部校友教員が在職しており、毎年優秀な教え子をアカシアの森に送っております。そして、卒業後の就職面でも静岡県庁をはじめとして静岡市役所を中心として県内すべての市役所には校友がおり、さらに県内主要企業にも多くの校友が活躍しておりますので、大変大きなメリットをもっております。学部当局もこの工学部の大きな特色を活用して魅力ある工学部づくりをめざしてほしいと思います。

なお、今回の工学部懇談会にはいつも静岡アカシア会に力強い応援をいただいている工化6回卒の大先輩・石部欽一郎氏もご出席いただきまして後輩の校友に大きな励みになりました。さらに、いつも若輩の会長と静岡アカシア会に暖かいご指導とご支援をいただいております静岡市役所アカシア会をはじめとした諸先輩に厚く感謝する次第であります。

そして、静岡県は東海支部に所属しておりますが、名古屋まで遠距離であるため、毎年の支部総会には参加が厳しい状況であります。さらに校友の数も2000人を越えておるといことで東海支部のもとに静岡支会が設立されたのであります。しかしながら、校友会からの財政的援助は皆無でありますので是非ともこの点をご検討いただき、伝統ある工学部校友会のいっそうの発展と静岡アカシア会の充実に繋げていただきたいと思います。

日大工学部が就職懇談会
保護者らに助言
日本大学工学部の教職員、学生の保護者、卒業生による「工学部懇談会」が、このほど、静岡市内のホテルで開かれ、約八十人が出席した。懇談会は就職を現にめざす学生に就活のポイントを伝える場として開かれた。大企業から学部教育方針や就職方法、就職の現状などについて報告したほか、個別に就活で悩んでいる学生の悩みを保護者に伝えた。卒業生は行政や学校、一般企業など、専門職・技術職の現任に就くなど、業界の現状に詳しく、就職を希望する学生に求められる質問についてアドバイスした。

静岡新聞 1117.8.9

平成17年度四国支部総会を終えて

建築22回卒 四国支部事務局 牧野 隆次

四国支部総会は7月30日(土)高松市街が一望できる銀行の16Fのレストラン(グラン・リーガ)で開催いたしました。

総会は北岡支部長(化14回卒)の挨拶で始まり事務局より事業報告及び会計報告がありました。懇親会に入り本部の加藤木会長から大学の近況報告があり谷

久顧問(土8回卒)の乾杯によりパーティが始まりました。早谷川君(建31回卒)の巧みな会員紹介で会話は和やかな雰囲気になり最後には全員肩を組み高らかに校歌を歌い、来年の再会を約束しました。

四国支部の年間行事といたしましては、ゴルフ・1木会がございます。

1木会(毎月第1木曜日夕方6:30より開催)
場所「半分」TEL821-7856

本文を目にされた校友の皆様、四国にお出での折には是非お立寄り下さい。



九州支部活動報告

建築28回卒 九州支部長 上村 公仁隆

九州支部の活動報告ですが、月例会のアカシヤ会と10月に支部総会を行っています。今年はオール日大の校友会福岡県支部の総会の担当になり、土木福岡校友会と福岡桜建会と工学部校友会九州支部で総会を運営する事になりました。4月から何度も役員の方と打ち合せ会を行いました。どうせなら九州支部総会とオール日大の福岡県支部総会を一緒にやってはどうかとの意見が出ましたが、検討の結果、当日の会費収入が減収となるのではとの意見で別々の開催にしました。九州支部の総会が1週間後だったため、参加者がどうしても少なくなり、来年は時期をずらす事を検討したいと思います。月例会のアカシヤ会は毎月第3木曜日と決めて、メーリングリストやFAXで案内をしています。参加者が多い時もあれば、3~4人の時もありますが、気が置けない同窓会での話はいつもにぎやかです。九州支部でありながら、参加者は福岡県の近県の会員ばかりです。九州8県の同窓生が集まる九州支部を目標に頑張っていきたいと思っています。

アカシア教育研究会

建築 22 回卒 会長 永田 進

本会は、小・中・高・高専・短大・大学・専門学校において教職に従事する校友（現職・元職問わず）で組織し、平成 17 年 5 月現在、会員数 509 名に達しております。その分布は北は北海道から南は九州・沖縄まで全国すべての都道府県であり、とくに高等学校は工業高校を中心として、全国工業高等学校長協会理事・福島県立福島工業高等学校長の要職にある関根啓次先生（建築 16 回）以下 386 名であります。（平成 17 年 5 月現在）これは、半世紀以上にわたり、わが国の産業界に多くの人材を輩出している工学部の知られざる大きな特色であります。

このような状況のもと、会員相互の親睦とともに、母校に優秀な教え子を後輩として送り込むことを設立時より会の大きな目標に掲げてきましたが、平成 17 年度入学生に至っては、主に指定校・一般推薦、AO 入試を通して会員の勤務校より 120 余名がアカシアの森に後輩として入学いたしました。この数字は入学生の一割強を占める数字であります、これこそ工学部校友の熱い熱い母校愛の現れであると思います。今後はすでに実施しておりますが卒業生の就職開拓にも工学部校友会と一致協力してあたりたいと思います。これについては本年度は教職関係については、厳しい時代にもかかわらず 8 名の教員が誕生いたしました。これも学部教職教室のご尽力のおかげであります、全国各地の校友の情報提供や熱心なご指導のおかげであると思います。今後も会員一同、学部・教職教室一体となり『会員相互の親睦・優秀な生徒を母校へ・教職希望の学生の希望実現をはかり、工業教員日本一の伝統の堅持』の目標をしっかりと守って行きたいと思っております。皆様のご協力・ご支援をより一層お願いしたいと思います。

報 告

● 工学部で教職特別講演会が開催

・平成 17 年 5 月 14 日（土）渡辺世子先生（工化 21 回卒、現福島県立西郷養護学校校長）演題「福島県の特別支援教育―輝く笑顔を見るために」

・平成 17 年 11 月 5 日（土）久保田幸正先生（建築 19 回卒、新潟県立長岡工業高校校長）演題「これからの工業教育」

● 平成 17 年 12 月 10 日（土）工学部で行われた研究報告会で以下の先生が発表された。

永田 進（鳥田工業高校）山口 廣訓（足工大付属高校）

宮崎 拓也（新潟工業高校）松下 信禎（葛西工業高校）

佐藤 睦浩（日大東北高校）浦憲 親（金沢工大・建築）

● 金沢工業大学教授 博士（工学）浦憲親先生（建築 18 回）本会副会長は長年の壁土の研究で平成 17 年度日本建築工学会学会賞（論文賞）を受賞されました。

● 九州看護福祉大学教授西島衛治先生（建築 22 回）本会常任理事は「自閉症児に対応した教育空間の建築計画に関する研究」により平成 16 年 12 月、日本大学より博士（工学）を授与されました。

● 渡邊秀雄先生（機械 20 回卒）平成 16 年度より福島県立勿来工業高校の校長にご栄転される。

● 菊池義昭先生（建築 20 回卒）平成 17 年度より東洋大学教授になる。

● 本会・常任理事村田保男先生（建築 26 回・長野県立臼田高校進路指導主事）は平成 17 年 12 月 7 日御逝去されました。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌。

❖ 校 友 レ ポ ー ト ❖

「想い出の学生時代」が育んだ 「製品開発」



電気 20 回卒 リードエンジニアリング株式会社

代表取締役社長 中山 健一

「ボクの街・郡山」郡山の駅に降り立ち「拡声器」から聴こえた「ぼくのまち・こお〜りやま、夕日が沈めば磐梯山もため息つくのか・・・」昭和 6 年に作られた「郡

山市歌」と並ぶ懐かしい歌で今日でも盛況と伝える情報も目にできるが、今の駅前では聴くことはないでしょう。東北新幹線の走る郡山、駅にたたずむと、ついこの前のように想いだす。

月日の経つのは早いもの。光陰矢のごとしか！

東北の大学で培った学業、自然と環境の中での友情そして心の触れ合いは、尊い学生時代の宝物です。大学紛争真っ只中の入学！日本大学工学部が占拠され、入学したての勉学に燃える気持ちも妨げられた。講義

は遊技施設のボーリング場二階を教室に改造し行われた、一階からは当時大ヒットしたいしだあゆみの「ブルーライト横浜」のかろやかな歌声がボーリングピンの飛び散る音とともに響き渡る。現在の工学部の学び舎とは想像もつかない中での悔いの残る勉学、やり残し多くも、想いで深い四年間でした。

東北の地で得た素晴らしい人との出会い。我が家のように優しくして頂き先輩の家から成人式も出席した思い出のスタート。そして食べ盛りの時期にたらふく夕食をさせて頂いた宿の小母さん。俺は川原の枯れスキ・・・と歌いながら何時もお茶を、そして時にはお酒をふるまってくれた御爺さん。ほんとに有り難うございました。感謝の気持ちと恩返しの気持ちで歩んで来ました。そして何年に一度か第二の故郷に帰るのも楽しみです。

幸いなことに昭和47年卒業時期には大学院が設立され、仲の良い級友も数人進学し、大学での研究に勤しんでくれた為、今でも学び舎を訪ねる機会にも恵まれています。

思い返せば大学を巣立ち、電気計装システム系企業に入社して13年全力で仕事に励み35歳で会社を設立しすでに22年目を迎え、過ぎてしまえば若かったから出来たのかも知れない。が、数年前、培った今までと全く違った開発を始めた。常日頃のストレス発散、趣味的な語らいから発展し、産学連携に至る開発テーマとなり「シバシバ」なる製品の完成。

それは植物を育てるという趣味、多大な業務の中からひと時でも没頭できる貴重な時間の楽しみ作りに始まり、緑と土、心和む自然の息吹・美味しい空気の魅力を感じたのです。やはり郡山の自然で育った青春の思い出が潜んでいて芽を吹いたのかも。

会社設立21年目にして掴んだ新規事業分野で遅ればせながら、東京都より「東京都ベンチャー技術大賞特別賞」を受賞。東京ビックサイトで開催された「産業交流展2004」ベンチャー技術大賞表彰式にて東京都知事石原慎太郎氏より授与されました。都知事が弊社の受賞者特別展示場をご覧になり、これはなかなか善いものだと思われ感心されました。

これからも更なる研究開発を重ね、巨大コンクリート化した都市生活が、少しでも心和む自然環境作りに役立つよう取り組んで参ります。青春時代の思い出からの発想が、大都会の何処かでささやかれるような…夢の沸く、緑あふれた心通う街に成れば幸いです。

「東京都ベンチャー技術大賞特別賞製品」＊
混植常緑技術を用いた屋上緑化芝マット「シバシバ」

特許製品「シバシバ」

ビル屋上やベランダに芝育成軽量化マット（「シバシバ」）を敷設する工法により、施工前の防水・盛土工事を要する工法と比較し、簡易程度で十分であることから、工期は短く安価で、新しいビル屋上緑化工法として注目されています。ヒートアイランド現象防止にも役立つ心和む天然芝マットの自社開発特許製品です。

注記

＊東京都ベンチャー技術大賞

優れた核となる技術の下で、革新的な技術及び製品開発に挑む創業・ベンチャー企業のもつ技術力を表彰することにより、東京のさらには日本の産業活性化と雇用の創出を図る為の顕彰制度です。



A. 授賞式



B. 展示場見学



C. シバシバ

CAMPUS NEWS

INFORMATION

応援団 短信

土木 20 回卒 應友会 会 長 深野 一男

機械 29 回卒 事務局 永田 直史

押忍。当團は『全学生、全校友、そして社会』に愛される応援団を目指し復活を遂げ、早3年が過ぎました。

今年度の活動としては、新年の『箱根駅伝』の街頭応援、『第54回全日本大学野球選手権大会』（東京ドーム）への応援活動をはじめ、体育会各クラブの試合前の激励活動や北桜祭でのリーダー＆チアリーダーリング公開、そして『母校を訪ねる会』でのリーダー公開を行い徐々にではありますが活動の機会を増やしてまいりました。

リーダーについても、伝統ある日本大学工学部応援団のリーダーを継承していく為、現役－OBが一体になり継承活動を進めてきました。まだまだ全てのリーダーの演舞をすることはできていませんが、応援団のOB会である『應友会』のOBが現役をしっかりサポートし、金銭的援助もさることながら、OB各位が貴重

な時間を割いて工学部に来校し、現役に対して直接指導を行っております。

このような活動を通じ、現役－OB間だけでなくOB同士のつながりも以前にも増して強くなっており、改めて応援団OBの結束力の強さを感じました。

今後は、これらの活動を継続していくよう推進して参ります。押忍



時代のニーズに即応し、就職支援体制がさらに充実

就職指導課

工学部の就職指導課を中心に、ITを駆使した就職支援体制がさらに充実。学生一人ひとりの可能性を力強くバックアップしています。

工学部に送られてくる求人票は、1年間で約1,200社。これらの情報をタイムリーに検索できるのが「新工学部就職求人情報検索システム」です。

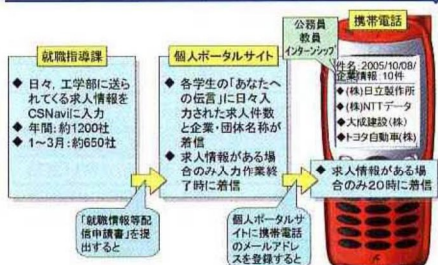
このシステムを活用すれば、企業の求人票や企業情報、合同企業セミナーや会社説明会、採用試験



の案内、公務員・教員の受験案内、インターンシップの募集案内など、さまざまな情報がリアルタイムで入手できます。この他に約157,000社分の企業情報が検索できるうえ、日本大学本部の約35,000件の求人情報も入手可能です。

また、就職指導課に届いた最新の求人情報を、その日のうちに学生の携帯電話やメールアドレスに発信する「就職求人情報自動配信システム」もスタートしました。大学に行かなくてもリアルタイムで求人情報をキャッチできるため、就職活動中の学生にとっては心強い味方になっています。

個人ポータルサイトを利用した就職求人情報自動配信システム



さらに各学科ごとの求人件数や、現在受付中の求人企業、団体名などが、本館1階の入口に設置されているデジタル掲示板にも表示されます。このデジタル掲示板は、2006年3月に完成する新教室棟にも設置される予定です。

平成 17 年度 課外活動サークルの主な大会と成績

◆体育会サークル

団 体 名	大 会 名	種 目	成 績
アメリカンフットボール部	東北アメリカンフットボールリーグ戦		第 5 位
空 手 道 部	第 4 回東北空手道選手権大会	男 子 個 人 形	準 優 勝
	第 56 回東北地区大学総合体育大会	男 子 個 人 形	準 優 勝
	第 10 回全日本空手道連盟系東会東北選手権大会	男 子 組 手	第 3 位
		女 子 組 手	準 優 勝
器 械 体 操 部	平成 17 年度東日本理工系大学体操競技選手権大会	男 子 団 体	第 3 位
		男 子 個 人 鉄 棒	第 3 位
弓 道 部	第 27 回東北女子記録会	女 子 個 人	準 優 勝
剣 道 部	第 4 回全日本学生剣道オープン大会	男 子 個 人 初 段 以 下	優 勝
		男 子 個 人 二 段 の 部	第 3 位
硬 式 庭 球 部	2005 年全日本学生室内テニス選手権	男 子 複 出 場	
	2005 年東北学生テニス選手権大会	男 子 複	優 勝
	2005 年第 35 回東北学生選抜室内テニス選手権大会	男 子 複	優 勝
	第 56 回東北地区大学総合体育大会	団 体	第 3 位
硬 式 野 球 部	第 54 回全日本大学野球選手権大会	団 体	出 場
	平成 17 年度南東北野球連盟 春季リーグ戦	団 体	優 勝
	平成 17 年度南東北野球連盟 秋季リーグ戦	団 体	第 4 位
	第 300 回吾妻杯争奪大学野球選手権大会	団 体	優 勝
サ ッ カ ー 部	第 85 回天皇杯福島県代表決定戦	団 体	第 3 位
	平成 17 年度東北地区大学サッカーリーグ	団 体	第 6 位
柔 道 部	第 46 回全日本理工科学学生柔道大会	団 体	準 優 勝
少 林 寺 拳 法 部	第 38 回東北学生大会	男 子 個 人 段 外 の 部	優 秀 賞
	2005 少林寺拳法国際大会 IN 福井	3 部 門	出 場
水 泳 部	第 56 回東北地区大学総合体育大会	女 子 個 人 200M	第 3 位
射 撃 部	第 23 回東北ライフル射撃選手権大会	男 子 個 人 10mS60M	準 優 勝
	第 32 回東北総合体育大会 (国体出場)	男 子 個 人 10mS60M	準 優 勝
軟 式 野 球 部	全日本大学軟式野球選手権大会東北地区代表決定戦	団 体	準 優 勝
ボ ク シ ン グ 部	東北シニアボクシングトーナメント大会	男 子 個 人 ライト級	優 勝
ラ グ ビ ー 部	平成 17 年度東北地区大学ラグビーリーグ戦	団 体	第 4 位
陸 上 競 技 部	平成 17 年度東北学連春季競技会	男 子 個 人 走 幅 跳	第 3 位
	第 27 回北日本学生陸上競技対抗選手権大会	男 子 個 人 5000M	第 3 位
	第 56 回東北地区大学総合体育大会	男 子 個 人 走 幅 跳	第 3 位
		男 子 個 人 1500M	準 優 勝
		男 子 団 体 リレー	第 3 位

◆学術文化連合サークル

団 体 名	大 会 名	種 目	成 績
囲 碁・将 棋 部	東北学生新人戦十傑戦	個 人	出 場
機 械 研 究 会	第 16 回手作り自動車燃費競技大会	大学高専一般の部	第 3 位
	第 25 回本田宗一郎杯 Honda エコノパワー 燃費競技全国大会		出 場
情 報 研 究 会	第 5 回 i アプリコンテスト ドコモカップ東北	i アプリ 部 門	特 別 賞
サイクリング部	第 16 回新日本スポーツ連盟宮城デュアスロン	一 般 男 子	第 5 位

◆未加盟サークル

団 体 名	大 会 名	種 目	成 績
吹 奏 楽 部	第 43 回福島県吹奏楽コンクール		銀 賞
	第 33 回福島県アンサンブルコンテスト	木 管 三 重 奏	銀 賞
		金 管 六 重 奏	銅 賞
自 動 車 部	東北学生自動車連盟ダートトライアル大会	オープンクラス	第 7 位
桜家一門ヨサコリ隊	うつくしま YOSAKOI 祭り in 郡山		準優秀賞

◆学外行事参加・学内外展示公演等

団 体 名	大 会 名	場 所
体 育 会	歳末助け合い運動	郡 山 駅 前
演 劇 部	春期定期公演	工 学 部 ハ ッ ト NE
	秋季定期公演	工 学 部 ハ ッ ト NE
音 楽 研 究 会	クリスマスコンサート	郡 山 市 内
モダンジャズ研究会	リトルジャズコンサート	工 学 部 30 周 年 記 念 館
	ジャズリサイタル	工 学 部 30 周 年 記 念 館
桜家一門ヨサコリ隊	みちのく YOSAKOI 祭り	宮 城 県 仙 台 市
	福島県私学デー「フェスティバル 2005」	郡 山 駅 前
吹 奏 楽 部	第 32 回定期演奏会	郡 山 市 民 文 化 セ ン タ ー

◆公共団体表彰

団 体 名	大 会 名	場 所
体 育 会	第 59 回福島県社会福祉大会 大会会長表彰	郡 山 市 民 文 化 セ ン タ ー

工学部校友会の事業計画

工学部校友会では、本部校友会とは別に様々な事業を実施または計画しています。
その主たる事業は下記の通りです。

1 校友情報管理

会員4万7千人（平成17年3月現在）の会員名簿を、電算機処理により管理しています。従来は、外部委託による管理に依存していましたが、現在は校友会事務局内で、独自管理しています。

2 会報発行

年1回3月に発行し、工学部および校友会の現状をお知らせしています。また、校友会ホームページと併せてお知らせしております。

URL : <http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu>

3 組織対策

次の項目を組織対策として掲げています。

- ①日本大学校友会本部への協力
- ②工学部校友会支部活動への参加

4 校友会組織活動

全日本大学としての組織活動は、次のようなものです。

- ①工科系校友会連絡会への参加
- ②他学部校友会との協力

5 式典

参加する式典は次のとおりです。

- ①入学式（新入生へ入学記念品を贈呈）
- ②卒業式（卒業生へ卒業記念品を贈呈）

6 「母校を訪ねる会」の開催

工学部との共催により、毎年10月の学部祭期間中に開催しています。

7 工学部就職活動支援

就職指導課に提供している会員管理情報により、学生の就職活動への支援を間接的に行っております。

8 学生への宿舎紹介

工学部学生課主体で運営されている「下宿・アパート紹介関係の業務」を支援しています。

追記 以上の事業の他に新たな事業を開始するべく鈴木常任幹事（事業部長）を委員長とする準備委員会を設置しました。例として学生への学費援助制度の発足やクラブ活動への援助を検討中です。

日本大学工学部創立60周年記念事業資金

この度、日本大学工学部創設60周年記念事業資金の募集にあたり、平成17年2月17日から平成18年1月31日までに募金をいただいた校友の方々の御芳名を掲載させていただきました。なお、引き続き平成21年3月31日まで資金募集を行っておりますので、御協力よろしくお願い致します。また、掲載はご入金日順で掲載させていただきました。

寄付者御芳名(敬称略)

浦 渡 伊 水 高 北 成 近 橋 中 松 小 西 二 小 笠 大 佐 々 木 橋 丹 日 比 野 紺 盛 伊 堀 辻 浜
憲 文 義 利 保 直 明 芳 忠 秀 敬 好 文 英 久 征 紀 建 哲 一 昭
親 好 人 崇 治 之 史 夫 正 通 央 夫 雄 文 規 男 栄 壽 夫 男 男 二 雄 久 勲 博

山 與 三 岸 藤 矢 分 部 村 田 方 田 山 口 藤 本 藤 崎 崎 井 子 場 久 又 橋 辺 川 野
功 満 秀 光 威 文 光 忠 満 康 勝 久 美 子 夫 郎 典 也 誠 雄 治 志
三 毅 淳 夫 隆 幸 孝 鎮 文 夫 淳 敏 濟 博 夫 夫 男 典 子 夫 郎 典 也 誠 雄 治 志

吉 堤 宮 鈴 名 岩 松 甲 阿 福 摺 出 齊 小 下 古 寺 澤 油 大 生 赤 岡 立 高 霜 佐 梶
田 城 木 川 澤 本 田 部 井 寺 藤 松 重 橋 田 田 浅 越 子 澤 本 花 橋 出 藤
宏 壹 祐 男 彰 二 雄 哉 光 清 平 雄 一 彦 吉 生 実 三 正 明 明 美 行 聡 司 守 弥 一郎
一 皓 重 浩 英 博 義 三 德 憲 政 榮 昌 篤 耕 康 伸 繁 重 修

中 相 小 小 松 山 鈴 角 飯 熊 松 盛 北 三 村 貫 佐 林 芳 宮 片 田 新 岡 金 安
島 原 林 本 口 木 田 島 谷 本 武 山 脇 田 和 川 賀 田 桐 中 井 部 澤 藤
久 良 次 弥 政 芳 建 貞 康 松 隆 敬 健 鉄 研 一 保 宏 和
明 茂 博 郎 朗 市 勝 栄 亮 耿 修 二 行 良 衛 潔 祥 亨 司 児 哉 夫 夫 宏 幸 哉

赤 大 笠 御 代 田 田 里 賀 部 瓶 野 本 井 田 原 藤 貝 山 崎 村 吉 村 邊
達 隆 孝 広 信 和 春 時 義 健 勇 延 祥 正 博 正 喜 高 克 順 博 正
雄 夫 行 喜 一 浩 茂 一 裕 高 教 二 曉 幸 男 哉 康 通 信 明 己 一 祥 幸

本工学部校友会はこの記念事業資金（新教室棟建設費用）へ本年度分 500 万円を寄付いたしました。会員の皆様に報告いたします。

校友 短 信

土 木 工 学

- ◆佐々木 崇 (3回卒 柏市 H.17.8.26 受)
母校の益々の御発展をお慶び申し上げます。50周年記念「母校を訪ねる会」参加、嬉しく思います。
- ◆安部 京也
(3回卒 千葉県大網白里町 H.17.9.1 受)
「母校を訪ねる会」に出席するのははじめてです。楽しみにしております。
- ◆安東 弘 (3回卒 市川市 H.17.9.1 受)
体調不良のため欠席します。御盛會を祈念します。
- ◆佐藤 正
(3回卒 相模原市 H.17.9.2 受)
療養中につき欠席します。土木3回卒の皆様宜しくお伝え下さい。
- ◆山縣 実 (3回卒 松戸市 H.17.8.31 受)
工学部の益々の御発展を祈念しております。
- ◆鈴木 健 (3回卒 郡山市 H.17.9.13 受)
50年ぶりに母校訪問が出来ることに感謝しております。
- ◆石崎 光
(3回卒 武蔵野市 H.17.9.20 受)
ご案内ありがとうございます。出席させていただきます。
- ◆佐藤 幸助 (3回卒 千葉市 H.17.9.20 受)
母校の発展と会が盛會であることを祈念致します。
- ◆杉原 裕 (3回卒 市原市 H.17.9.26 受)
このところ体調がすぐれませんので、残念ですが、欠席させていただきます。
- ◆高橋 邦雄 (13回卒 福島市 H.17.9.5 受)
4年前、60歳定年退職し、引き続き事務長として元気に務めております。
- ◆稲田 賢一郎
(13回卒 豊前市 H.17.9.5 受)
週に2日非常勤講師として勤めてます。皆様によりよくお伝えください。
- ◆田中 基裕 (13回卒 茂原市 H.17.8.31 受)
現在、千葉県生涯大学校園芸科中心の遊びながらの毎日です。
- ◆黒澤 毅 (13回卒 高崎市 H.17.8.29 受)
最近、個々の同窓会にてキャンパスを訪れました。大変立派になっているので感動しました。
- ◆佐藤
(13回卒 西東京市 H.17.8.29 受)
仕事の都合で欠席致します。
- ◆鈴木 美樹 (13回卒 府中市 H.17.9.9 受)
勤務のため、出席できなくて残念です。次回は参加したいと思っています。
- ◆金田 毅 (13回卒 大阪市 H.17.10.3 受)
2年前に訪問して、学内の状況はある程度

承知しています。益々の御発展を祈念します。

- ◆岡本 圭司
(23回卒、名古屋市 H.17.9.1 受)
単身で仙台にはや5年!!楽しみにしていましたが、会社の社員旅行と重なり、出席できないのが残念です。
- ◆岸本 勉 (23回卒、釧路市 H.17.9.20 受)
残念ですが、参加出来ません。合併に伴う会議等の日程と重なっております。
- ◆岸 信男 (23回卒、大田区 H.17.9.27 受)
北海道へ出張中のため、欠席させていただきます。次回には出席したいと思います。
- ◆吉村 重良
(23回卒、中津川市 H.17.10.11 受)
地方行政に携わる一人として毎日頑張っております。皆様もご清栄のことと存じます。今回の行事開催について幹事様方たいへんご苦労さまです。今後もよろしくお願いいたします。
- ◆福島 健一
(33回卒、東村山市 H.17.8.29 受)
外国へ駐在中です。欠席させていただきます。
- ◆平子 保男
(33回卒、いわき市 H.17.9.12 受)
現在、地元いわき市にてトンネル工事の現場におります。がんばっております!
- ◆照井 和久 (33回卒、花巻市 H.17.9.27 受)
岩手県立総合教育センターに勤務して5年目になります。当日は研究会があるため残念ながら出席できません。盛會をお祈りします。

建 築 学

- ◆石嶋 秀雄 (3回卒、大田区 H.17.9.7 受)
近年、東京と富士山麓のあばらやにこもり、長年の趣味のオーディオと読書に専念する毎日を送っております。母校の益々のご隆盛をお祈りいたします。
- ◆今井 和男 (3回卒、横浜市 H.17.10.3 受)
欠席しますが、ご盛會を祈ります。
- ◆加倉井 建一郎
(13回卒、練馬区 H.17.9.1 受)
一昨年、退職を機に母校を久しぶりに訪ねました。校内を歩いただけでしたが、昔の面影はまったくなく、驚きました。益々の御発展をお祈り致します。
- ◆明石 雅之 (13回卒、福島市 H.17.8.25 受)
平成15年9月に死亡しました。
※明石様のご逝去を哀心より悼みます。合掌(工学部校友会)
- ◆米津 壮彦 (13回卒、福岡市 H.17.8.31 受)
現在、警備会社を運営しています。建築科の同期生に大変お世話になっています。
- ◆堀山 正博 (13回卒、新宿区 H.17.9.13 受)
定年も向かえ第二の人生を楽しくすごしております。建設界はまだまだ激しいものがあります。
- ◆菅野 陸生 (13回卒、郡山市 H.17.9.20 受)
退職してから、自然体で生きています。
- ◆野田 泰正
(13回卒、四日市市 H.17.10.5 受)
数年前、妻と共に訪れ、変化が大きいのにびっくり。皆様の益々の御発展を。
- ◆松谷 優
(23回卒、須賀川市 H.17.8.30 受)
6月に広島市の友人2人で、久しぶりにキャンパスを訪ねました。学食で昔味わたったメニューと較べながらラーメンを食べ、30年前をふり返り、当時を懐かしく思い浮かべました。
- ◆加藤 典義 (23回卒、本庄市 H.17.8.29 受)
元気でやっています。みなさんによろしく。

◆影山 公治

(23回卒、中国蘇州市 H.17.9.12 受)
社命で中国に来て3年になろうとしています。当地に來られる際はぜひお立ち寄り下さい。

◆内田 和博

(23回卒、南アルプス市 H.17.9.26 受)
17年4月定期異動により工事検査監になり毎日土木工事、建築工事の完成検査に頑張っています。

◆山田 順 (23回卒、西条市 H.17.9.26 受)

先般、校友会四国支部総会でいただいた「工学部広報」で、母校の発展を見聞して、是非10年ぶりに訪問したいと思っていましたが、仕事の都合で出席できません。次回を楽しみにしております。

◆丸山 健治 (23回卒、市川市 H.17.9.28 受)

建築学科の同期の人達、東京本面での集まりが有りましたら誘って下さい。皆様の御健勝を祈ります。

◆渡辺 一洋

(33回卒、富士吉田市 H.17.8.30 受)
現在、ログ・ホームの仕事に携わっています。大学を卒業してから既に20年。あっという間でした。

◆及川 剛 (33回卒、調布市 H.17.9.12 受)

徳定という住所をみて、昔を思い出しました。久しぶりに郡山へとも思いましたが、今名古屋で仕事をしているものですから…。次回は参加してみたいと思います。

◆中西 孝司

(33回卒、三重県御園村 H.17.9.29 受)
卒業後、東京、大阪勤務を経て、3年半前に故郷伊勢に家族4人で戻りました。

機 械 工 学

- ◆泉田 定美 (3回卒、郡山市 H.17.8.31 受)
大学及び校友会のますますの発展、お祈り申し上げます。
- ◆斎藤 清夫 (13回卒、郡山市 H.17.8.29 受)
桜の季節には毎年母校を訪ね、花見をしながら往時を懐かしんでいます。
- ◆池田 稔雄
(13回卒、名古屋市 H.17.9.5 受)
昨年4月に退任し、悠々閑々の生活を送っています。皆さんにお会い出来ることを楽しみにしています。
- ◆長原 幹 (13回卒 富士市 H.17.9.5 受)
10月23日、試験とかさなり参加できません。残念です。
- ◆笹野 幹夫
(13回卒、四日市市 H.17.8.29 受)
小野沢学部長を始め多くの方々にお目に掛かりたいのですが、まだ現役で動き回って居ります。
- ◆吉田 裕之
(13回卒、群馬県吉井町 H.17.8.29 受)
子供3人も巣立ち、2人暮らしで元気にやっています。定年時母校を訪ねましたが、入学時の面影(ブラック校舎)もなく、若者の行きかう姿に触れ、立派になったキャンパスを昔と重ねて見ながら郡山を後にしました。
- ◆中村 幸司
(13回卒、世田谷区 H.17.9.16 受)
今秋、大学院で「MOT概論」を2回にわけて講義する事になっています。私の開発した「無交換式のオールフィルタ」がメインテーマの内容です。
- ◆甘井 邦博 (13回卒、松山市 H.17.9.26 受)
仕事の都合により参加できず、皆様にお会いできないのが、大変残念ですが、又の機会

を楽しみにしております。

◆古坂 多壽大

(23 回卒、松山市 H.17.9.5 受)
古巣の松山工業高校に帰って 3 年目になりました。定時制の勤務で機械科長をしております。日々追われる毎日です。

◆坂本 慈美(23 回卒、静岡市 H.17.8.25 受)
皆様のご健勝を願っています。

◆橋本 利子(23 回卒、葛飾区 H.17.9.6 受)
AFP 取得。現在 CFP の勉強中です。11 月に試験を受けます。

◆益子 慎治(23 回卒、福島市 H.17.9.20 受)
現在、県庁商工労働部労働領域勤務です。県庁桜門会、県北桜機会活動中です。今回の発起人として協力させていただきます。

◆田中 哲夫(23 回卒、前橋市 H.17.9.20 受)
仕事の都合で出席出来ません。第二の人生で頑張ってます。

◆斎藤 公志(33 回卒、郡山市 H.17.8.31 受)
日程が合わず参加することが出来ず、とても残念です。皆様にもよろしくお伝え下さい。

◆沖山 明久(33 回卒、和光市 H.17.9.27 受)
同窓の皆さんが、どうか元氣な顔で、たくさんの再会が出来ますことを。

電気工学

◆柏村 孝

(3 回卒、海老名市 H.17.9.20 受)
大変楽しみにしていたのですが、第 60 回国体(岡山県)役員として 22～27 日まで拘束されてしまい、参加出来ないのが残念です。皆様によろしく！

◆荻原 國昭(13 回卒、一関市 H.17.8.25 受)
平成 16 年 12 月 31 日に仕事を辞め、一関に帰郷しております。健康に過ごしております。孫 2 人となり、母 89 歳も健在です。旅行中心として、東北各地の自然風景を油絵にしようと考えて取組中です。

◆蛇石 良夫(13 回卒、郡山市 H.17.9.1 受)
10 月 22 日～24 日、娘の結婚のため家を離れます。誠に申し訳ありませんが欠席いたします。

します。

◆黒崎 昭夫(13 回卒、新潟市 H.17.8.30 受)
今回は都合により欠席ですが、次回(10 年後かな?)には参加したいと思います。

◆近藤 正英(13 回卒、埼玉県毛呂山町 H.17.8.26 受)
体調不良のため出席できません。

◆日景 範久(13 回卒、鎌倉市 H.17.8.29 受)
2 年前定年退職し、年金生活に入っております。残された第二の人生を精一杯過ごしたく思っております。

◆田中 一義(13 回卒、宇都宮市 H.17.8.29 受)
平成 15 年 1 月 29 日に死去しました。

※田中様のご逝去を哀心より悼みます。合掌(工学部校友会)

◆市田 肇(13 回卒、京都府瑞穂町 H.17.9.28 受)
平成 15 年末に職を辞し京都の田舎に移り住み、現在は庭作り、野菜作りとその合間に海外旅行を楽しんでおります。

◆山口 敏彦(23 回卒、山形市 H.17.9.5 受)
懐かしいですね。現在、仙台市に単身赴任しております。残念ながら、身内の結婚式の予定で参加できません。皆様方に宜しくお伝え下さい。

◆武田 薫(旧姓：大洲 23 回卒、埼玉県白岡町 H.17.8.30 受)
当日、中津高校(岐阜県)の 100 周年の出席の為、欠席させていただきます。

◆百瀬 隆裕(23 回卒、長野市 H.17.8.29 受)
残念ですが仕事の都合で参加できません。機会を作ってキャンパスを巡りたいと思っています。

◆中尾 正治(23 回卒、広島市 H.17.8.26 受)
皆様に宜しく。

◆橋本 雅邦(33 回卒、大分市 H.17.8.30 受)
職業「地方公務員」が勤務不変です。又、チャンスに参加成ること祈りつつ。

◆吉富 一郎(33 回卒、横浜市 H.17.10.5 受)
これからの益々の発展をお祈りいたします。

訃報

電気 4 回卒橋本義久先生は平成 17 年 10 月 24 日心筋梗塞のため御逝去されました。先生は 40 年以上にわたり母校工学部で教鞭を執られ学生に大変親しまれておりました。(高電圧工学専攻)ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(工学部校友会)

工業化学工学

◆市川 肇

(3 回卒、茅ヶ崎市 H.17.9.15 受)
案内状をいただき、卒業当時を思い浮かべました。校友会報で目覚ましい発展を知り、本当にうれしく思います。工学部及び諸先生方の益々の発展を願っております。

◆中田 稔(13 回卒、栃木市 H.17.8.26 受)
定年後 2 年間嘱託として働いておりましたが、今年 2 月で退職しました。現在はスポーツクラブやゴルフ、旅行等で人生を楽しんでおります。

◆渡辺 耐孝(13 回卒、佐世保市 H.17.9.13 受)

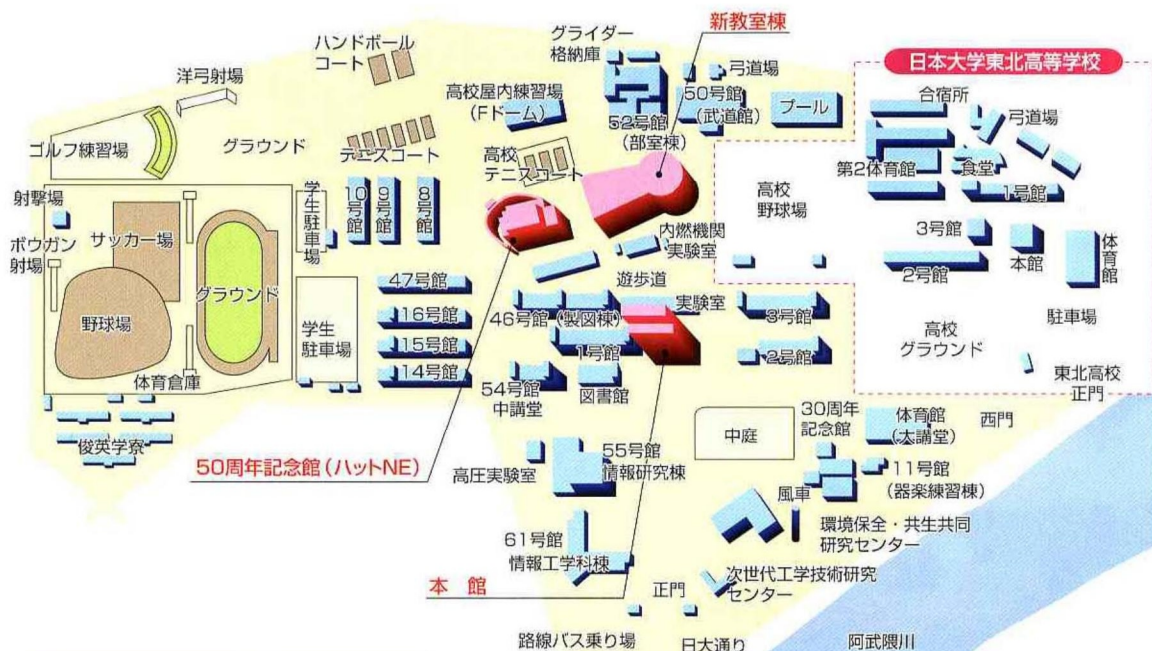
在学していた約 40 年前は、佐世保から汽車を乗り継ぎ 30 時間かけて郡山まで来ていました。日大道路も未舗装でした。今は楽しく、なつかしい思い出です。家族同伴で「母校を訪ねる会」に参加させていただきます。

◆館川 修(13 回卒、柏市 H.17.9.28 受)
早いもので卒業後 40 年目。現役で頑張っています。

◆青木 信一(13 回卒、塩山市 H.17.10.3 受)
ぎりぎりまで都合をつけようとしたのですが、だめでした。次回よろしく願います。

◆五十嵐 孝博(23 回卒、国分寺市 H.17.9.9 受)
亡父の一周忌と重なり出席できません。残念です。

◆柳田 謙(33 回卒、郡山市 H.17.8.31 受)
卒業以来、まったく畑違いの職に就いております。



キャンパスマップ

平成 18 年度 通常総会通知

本会会則第 13 条により、日本大学工学部校友会平成 18 年度通常総会を下記に通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙とは存じますが、先輩・後輩お互いにお誘い合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成 18 年 4 月 22 日(土) 14 時より
2. 場 所／日本大学工学部 50 周年記念館(愛称：ハット NE)
3. 議 題／(1) 平成 17 年度会務報告および決算報告
(2) 平成 18 年度事業計画および予算審議
(3) その他
4. 懇親会／総会終了後、同所 2 階カフェテリアにおいて大学関係者を迎えて懇親会を開催。以上

第 26 回 母校を訪ねる会

日 時／平成 18 年 10 月 22 日(日)
場 所／日本大学工学部 50 周年記念館
(ハット NE) を予定
対 象／第 4 回卒業生(昭和 31 年 3 月卒業)
第 14 回卒業生(昭和 41 年 3 月卒業)
第 24 回卒業生(昭和 51 年 3 月卒業)
第 34 回卒業生(昭和 61 年 3 月卒業)

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や級友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第 56 回北桜祭開催中です。
なお、クラス会を予定される幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。



本部役員メンバー

校友会報 第 69 号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原 1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX 番号 024-944-1327
E-mail: info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL: http://www.ce.nihon-u.ac.jp/kouyu
発行部数 50,000 部
発行日 平成 18 年 3 月 1 日
発行代表者 校友会会長 加藤木 研
編集責任者 編集委員長 長澤 幸二
印刷所 (株)クサカ印刷所 電話 024-958-5511